

(社会福祉法人大和郡山市社会福祉協議会 編集)



いつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らすためには、どうすればいいのでしょうか？

趣味や特技を活かした活動やつどいの場を充実させて、笑顔があふれる地域、お互いさまの思いやりと支えあいの仕組みを地域の皆さんと一緒に考えていきます!!

大和郡山市社会福祉協議会では、「地域の課題解決力を育む地区社協づくり」を目指して、地区社協と協働で、課題解決サイクル「地区社協 大和郡山モデル」の構築に向けて取り組んでいます。

- ①住民同士がつながりをもち、生活・福祉課題に気づく(発見する)
- ②住民参加による生活・福祉課題を共有、解決する
- ③生活・福祉課題を共有し、新たな活動を生み出す

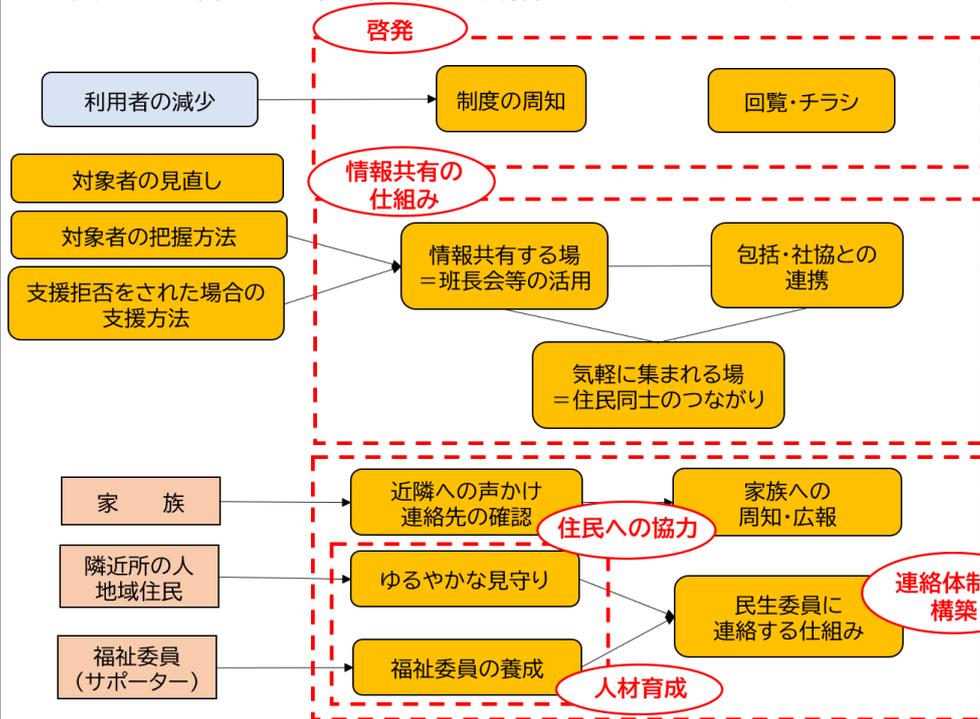
【地区社協 大和郡山モデル】



地域の見守り活動について意見交換！

地区懇談会や自治会アンケート、見守り部会から挙げた「筒井地区での見守り活動」について整理された課題をもとに、令和4年1月15日に自治会、民生委員、地域ボランティアが集まって意見交換会を行い、以下のような取り組み案に整理することができました。

今後は、整理された意見から筒井地区流の見守りの仕組みづくりにつなげていきます。しかし、福祉機関・団体だけで支援が必要な人に気づくには限界があり、住民一人ひとりの気づきが大切です。住民みんなで、安心して暮らせる筒井地区を目指していきましょう。



<筒井地区の現状>

	R3年11月
人口	5,992 人
世帯数	2,741 世帯
高齢化率	30.06 %
65歳以上	1,801 人
75歳以上	937 人

移動支援アンケートにご協力ありがとうございました

筒井地区社協・企画部会では、交通の不便さなどにより外出がしづらい高齢者を対象に、住民同士の助け合い活動(ボランティア活動)による移動支援を検討しています。このたび、令和4年4～5月にかけて、筒井地区にお住いの65歳以上の高齢者を対象に、移動支援に関するアンケート調査を行いました。ご協力いただきました皆様、アンケート配布・回収にご協力いただきました自治会役員の皆様、ありがとうございました。アンケート結果の一部をご紹介します。

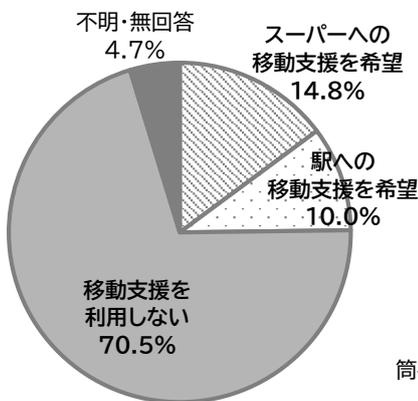
- ◆ 回答者数は 451 人で、自治会を通じて対象者にアンケート配布・回収を行いました。回答者の年齢は、65 歳以上 13.3%、70 歳代 52.8%、80 歳以上 33.7%でした。
- ◆ 筒井地区は比較的平坦な地形で、地区内に駅やスーパーもあることから、利用しないという回答が7割を占めました。
- ◆ しかし、青葉台自治会や北垣内自治会など、駅から遠い地域を中心に利用したいという人も多く、全体で 24.8%(買い物での利用 14.8%、駅までの利用 10.0%)がありました。
- ◆ ただ、自分で車やバイク、自転車でいくと回答した人の中には、「今は自分でできるが、将来は不安。」「運転免許返納後など、将来は利用したい。」というご意見が多数ありました。

高齢者の移動支援については、矢田地区社協で令和3年8月より「矢田おでかけGO」が運行されています。他地区での取り組みも参考にしながら、筒井地区住民のニーズに合った、住民が主体となって取り組める移動支援について検討を進めていきます。

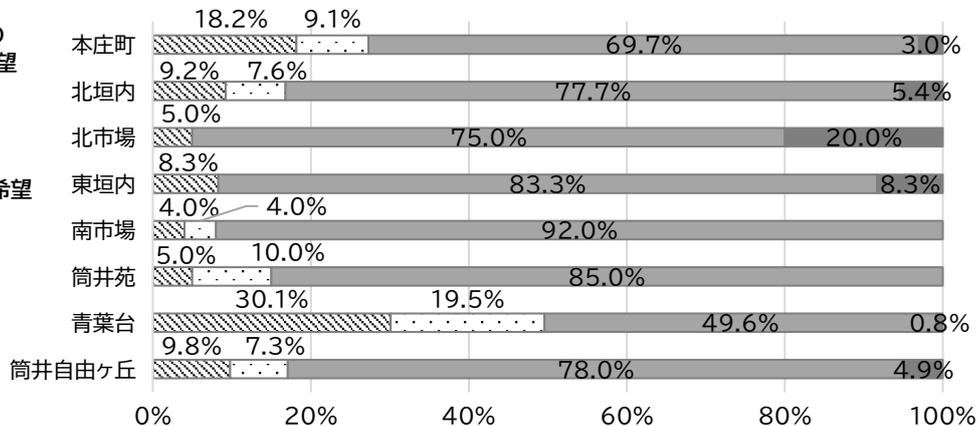


【アンケート結果(抜粋)】 問)移動支援の利用を希望しますか？

<全体>



<自治会別> ④自治会により回答者数が異なります



【地区社協ってなに?】

市内には8つの地区社会福祉協議会(略して地区社協)があり、地域住民をはじめ、自治会、民生・児童委員、老人会、PTAなど、各種団体やボランティアらが主体となって、住民一人ひとりの生活・福祉課題を地域の課題として受けとめ、「誰もが安心して暮らすことのできるまちづくり」を推進する住民組織です。住民相互の支えあい活動を広げるため、講演会や世代間交流事業を開催したり、高齢者の見守り活動や健康づくりなどに取り組んだりしています。

高齢化が進むなか、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、住民同士のつながりや見守り、支えあいの仕組みが必要となります。

生活支援体制整備事業では、地域の皆様とともに身近な地域での支え合いの地域づくりを進めます。(大和郡山市委託事業)

【問合せ】大和郡山市社会福祉協議会 福祉課
大和郡山市植槻町3-8社会福祉会館内
電話 53-6531/FAX 55-0986